

今回ミニグループディスカッション 1 では、PCI 時のトラブルに対する予防と対策について勉強を行いました。自分の所属する班では松原 徹夫先生から、ワイヤーによる冠動脈穿孔、それに伴う心タンポナーデを起こした症例提示をされました。

その症例は、冠インターベンションを待機的に行いましたが、ワイヤーは親水性のワイヤーを選択して治療を開始されました。治療は順調に行なわれましたがワイヤー先端が冠動脈末梢へ迷入したため冠動脈穿孔を引き起こしました。残念ながらフレーミングがワイヤー先端まで追っていないため穿孔に気がつかず、後日心不全症状を呈して来院され、超音波で心嚢水が貯留していたため上記診断となりました。

自分の PCI 経験はごくわずかでもあり、待機的な冠インターベンションを行う際には必ず上級医師に戦術、戦略についてディスカッションするように心がけております。しかしながら今後、自分が上級医師となり、教える立場へ今後なると思いますし、緊急の際には自分の判断で行なわなければならないでしょう。しっかりとした基礎を身につけ、検査、治療を行う際には細心の注意を払って行いたいと思っております。